

St. Luke's International University Repository

Review of Undergraduate Exchange Program : Outcomes and Learning from the Exchange Program in Yonsei University

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菱田, 治子, 片岡, 弥恵子, 奥, 裕美, 小山, 千香子, 鎗木, 洋子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/1312

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



報 告

学術交流協定による本学学生海外研修プログラムの報告
- 韓国延世大学との受け入れ・派遣プログラム -

菱田 治子¹⁾ 片岡弥恵子²⁾ 奥 裕美²⁾
 小山千香子²⁾ 鍋木 洋子²⁾
 (聖路加看護大学2007年度国際交流委員会)

**Review of Undergraduate Exchange Program :
 Outcomes and Learning from the Exchange Program with Yonsei University**

Haruko HISHIDA, MA¹⁾ Yaeko KATAOKA, CMN, DNSc²⁾ Hiromi OKU, RN, MN²⁾
 Chikako KOYAMA, BA²⁾ Yoko KABURAGI, MA²⁾

[Abstract]

An International Exchange Committee was established at St. Luke's College of Nursing (SLCN) in 2006, and the following year, 2007, a student's subcommittee was organized under this Committee. It means that the International Exchange Committee is developing year by year. We have already exchanged students three times between Yonsei university (Yonsei) and SLCN in a short term student exchange program based on the agreement between the two universities.

This year, a short weekend homestay was provided for the first time by the Japanese side of the program and it was welcomed as a most gratifying experience. The students from SLCN also had a meaningful experience in Korea through the program provided by Yonsei. There in Yonsei, the students who had previously visited SLCN were mainly in charge of taking care of students from SLCN. Therefore, the connection between students in our two universities is becoming stronger.

In order to improve this exchange program, some issues need more attention. For example, students on both sides need to have some knowledge about the other's nursing issues and language in advance.

Here is our report of the activities we managed this year in the International Exchange Program between Yonsei and SLCN. Based on these valuable experiences, we plan to further develop our committee system and strive to get the maximum benefit for both our students and our colleges.

[Key words] international exchange, undergraduate exchange program, intercultural understanding, Korea

[要 旨]

昨年度の国際交流委員会設置に引き続き、本年度は学生国際交流委員会が組織化され、国際交流事業の活発化のための基盤が確立し始めている。そのような中、学術交流協定に基づき韓国延世大学看護学部との間で相互に行われている短期海外研修プログラムは、すでに3度の学生の派遣・受け入れを行い、その活動が軌道に乗り始めている。

海外研修生の受け入れプログラムでは、本年度から週末を利用したホームステイを企画したが、海外研修生の最も印象に残る催事となっていた。また、本学から延世大学に派遣した学生も、同様に充実した研修を終えて帰国している。特に、過去に本学を訪れた学生が交流の窓口となって関与するなど、数年間の交流の積み重ねが、着実に国際交流の礎となってきた。ただし、プログラムをより充実させるためには、事前に語学、日本の医療に関する基礎的知識を身につける等、課題もいくつかあげられている。

1) 聖路加看護大学 国際交流委員会委員長 St. Luke's College of Nursing, Committee on International Exchange, Chair
 2) 聖路加看護大学 国際交流委員会 St. Luke's College of Nursing, Committee on International Exchange

今年度の活動を通し、国際交流活動の発展的継続を行うために検討すべき課題も明らかになった。そうした課題を踏まえ今後も制度整備を進めていきたい。

[キーワード] 国際交流, 海外研修プログラム, 異文化理解, 韓国

I. はじめに

交通・情報網が発達した今日、様々な分野において国際化が進んでいる。医療・看護の分野でも、多種多様な背景を持つ人々と接する機会は増え、さらに世界の中での日本の役割を考える上で、国際的に貢献することができる可能性のある人材を育成することも必要となっている。そこで本学では学生の国際的視野を広げるため、異なった文化や言語を用いる人々と交流することや、その環境を体験することにより異文化理解を深めること、共通項である「看護」に関する制度・政策のあり方、社会の状況をふまえた保健医療システムのあり方、看護職の役割などを学ぶことを目的として、米国、オレゴンサイエンス大学看護学部、韓国・延世（ヨンセイ）大学看護学部、タイ・マヒドン大学看護学部、マヒドン大学医学部看護学科ラマティボディ校、カナダ・マクマスター大学看護学部の4大学5学部と学術交流協定を結んでいる（2007年10月現在）。

なかでも、延世大学看護学部とは、2005年度より学部学生の短期海外研修プログラムを開始しており、本年度までに3度、計24名（本学、延世大学各12名）の学生が相互に行き来し、多くの学びを得ている。そこで本稿では、これまでの本学および延世大学の短期海外研修プログラムを振り返ることにより、プログラムの成果を考察するとともに、今後の課題について報告する。

II. 延世大学・延世大学看護学部の概要

延世大学は、1885年に国王が設立し、聖公会の宣教師が運営した病院が前身となっている。韓国で最も古い伝統を持つ私立総合大学であり、約35,000人の学生数を誇る。

看護学部は1906年に創立され、韓国で最も伝統と歴史を誇っている。卒業生の多くが韓国内外の看護界において活躍しており、1988年には韓国で初めてのWHOコラボレーションセンター（World Health Organization (WHO) Collaborating Center for Research and Training for Nursing Development in Primary Health Care in Korea）として指定を受け、研究・実践を行っている。キャンパスはソウル特別市郊外に位置している。

III. 延世大学からの短期海外研修生受け入れ

1. 受け入れプログラム

期間は7月上旬の約2週間であり、研修生は毎年4名ずつ来日した。2007年度の受け入れプログラムを表1に示す。

ミニレクチャーはすべて英語で行われ、研修生のみを対象として行った。また、異文化コミュニケーションについては、本学学生と合同の授業に参加した。学内での講義の他、わが国の保健・医療・福祉の現状について学ぶため、施設の見学や実習を、都内、埼玉県小鹿野市等にて行った。プログラムの内容は、韓国の学生の希望を事前に把握し、関心が高いと考えられる事項を盛り込むことを考慮するとともに、幅広くわが国の現状を学ぶことができるよう考慮し、計画した（写真1、写真2）。

さらに本年度より、学生国際交流委員会が設置され、委員の学生と前年度までにボランティア経験のある学生の共同によって歓迎会や交流会、食事会等が企画されるなど、学生を中心にして行われる活動も年々活発化している。加えて週末には、学生保護者および本学同窓会の全面的な協力のもと2泊3日のホームステイも催行し、日本人の生活に直に触れることのできる機会を提供することができた。

2. 延世大学研修生からの感想

研修生による、プログラム評価の結果を表2に示す。研修生は、本プログラムを通して、日本の学生と交流し日本の文化やライフスタイルを知りたい、という期待が最も大きく、すべての学生が最も楽しかったプログラムとして、ホームステイをあげていた。また例年、本学学生と合同で授業等に参加したい、という要望があげられており、本年度も同様であった。

研修生の体調等を考慮し、過密スケジュールとならないよう配慮したが、学外における見学等では、訪問先の都合によって調整が困難な場合もあった。また研修生は、放課後などの自由時間には観光にも出かけたい、という事情もあり、忙しすぎた、という感想も寄せられた。

IV. 延世大学への短期海外研修生派遣

1. 本学学生派遣までのプロセス

本学学生の延世大学における短期海外研修プログラム

表1 2007年度延世大学短期海外研修生受け入れプログラム

日 時	日 程	プ ロ グ ラ ム
7月1日(日)	午後	成田空港到着(大学担当者および学生ボランティアによる出迎え) 宿泊先到着後, オリエンテーション
7月2日(月)	9:00-10:00	オリエンテーション
	10:00-10:30	学長・学部長訪問
	11:00-11:30	キャンパス内ツアー(学生ボランティア)
	11:40-12:40	歓迎会(学生ボランティア企画)
7月3日(火)	14:00-15:00	るかなび・研究センター案内
	10:30-11:30	講義:日本の保健医療福祉行政と看護制度
	11:40-12:40	クッキング交流会(学生ボランティア企画)
	12:40-14:10	講義:異文化コミュニケーション
7月4日(水)	14:30-15:30	講義:日本の看護教育
	16:00-	交流会(学生ボランティア企画)
	10:00-12:00	演習:日本人の生活習慣について
7月5日(木)	13:00-14:00	講義:母性看護
	15:00-17:00	上野・港町診療所訪問
	午前	フリー
7月6日(金)	14:30-15:30	講義:国際看護ゼミナール
	16:00-	懇親会(国際看護ゼミナール企画)
	午前	東京下町散策(学生ボランティア企画)
7月7日(土)	12:40-15:50	演習:看護援助論Ⅲ
	17:00-	ホームステイへ出発
7月8日(日)		ホームステイ
7月9日(月)		ホームステイ先より帰校
7月10日(火)		デイサービス太陽訪問
7月11日(水)		埼玉県小鹿野町訪問
7月12日(木)	10:00-11:00	研修のまとめ
	11:50-12:30	送別会
7月13日(金)	9:00-15:00	見学/実習 聖路加国際病院(看護部, 病棟)
	15:30-16:30	見学/実習 聖路加国際病院(広報部による病院案内)
	18:30-	送別会(学生ボランティア企画)
7月14日(土)	午前	日本出発



写真1 学生運営の研修生歓迎会



写真2 病院での見学実習

も、約2週間、夏休み期間の9月上旬頃に行われている。派遣学生は、5月中旬に募集を開始し、国際交流委員会での書類審査および教授会での承認を経て6月中旬に決定される。2005年度は応募資格を3、4年生(助産課程履修者を除く)に限定したが、より多くの学生に学習機会

を提供したいと考え、2006年度からは2年生にも門戸を広げている。派遣学生の選考は、志望動機と目的に関する小論文(日本語)をもとに行われているが、現地でのコミュニケーションには、相応の韓国語または英語の能力が必要であることを考慮し、2007年度からは語学能力

表2 2007年度延世大学短期海外研修生研修終了後アンケート結果 (回答者数4名)

質 問	回 答 () は回答者数
交換留学プログラムで期待していたこと (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化、ライフスタイルを知ること (3) ・日本の学生と交流すること (2) ・聖路加看護大学の教育について学ぶこと (1) ・日本の医療、ヘルスケア、看護システム、公衆衛生、看護教育等について学ぶこと (1)
期待に沿ったか	<ul style="list-style-type: none"> ・はい (4) ・いいえ (0)
一番楽しかったプログラムと、その理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイ (4)
あまり楽しくなかったプログラムと、その理由	<ul style="list-style-type: none"> ・港町クリニック訪問 (3) (理由) 2時間丁寧に説明していただいたが、長く感じた ・演習: 日本人の生活習慣について (1)
プログラム全体として、忙しかったか	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しかった, 自由時間が少ない (3) ・少し忙しかった (1)
プログラム全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもよかった。中でもホームステイがよかった ・11日と12日のスケジュールを交換してほしかった ・プログラムがたくさんありすぎて疲れた ・聖路加看護大学の学生と同じ授業に出たかった ・本当によかった, 皆様の親切に感謝している ・全部よかった
今後の改善に係るプログラムについてのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイがとてもよかった ・ホームステイがとてもよく, またホテルも快適だった ・見学などで訪問する先は大学の近隣にしてほしい ・聖路加看護大学の学生と一緒に実習がしたかった

(TOEFL, TOIEC, 英検等の得点) についても、選考時の参考とすることとした。さらに、派遣学生には帰国後の活動として、全学を対象とした報告会を企画することや、次年度以降に行われる国際交流事業に協力することも要請している。

派遣が決定した学生には、学内においてオリエンテーションを行い、日程や自己負担の概要説明、緊急連絡先を含めた連絡網・承諾書の作成、保険加入の催告等、事務的な手続きを行うとともに、学生の興味関心にそった内容や訪問先に関する希望を募り、延世大学担当者への連絡を行った。また、2006年度からは、前年度に派遣された学生との交流会を企画し、プログラムや、滞在する寮での生活等に関する「生の声」を聞く機会を設けている。

2. 延世大学での本学学生受け入れプログラム

2007年度の受け入れプログラムを一例として表3に示す。プログラムは現地到着後の学生の要望にも適宜応じるなど、延世大学側の配慮があった。また、自由時間の行動に関して学生同士で直接に交渉を行い、ホームステイに応じてもらう、という活動もあった。過去の交換プログラムで本学に滞在した学生が、本学の学生と延世大学生との交流の窓口になるなど、数年間の大学間の交流の積み重ねは、着実に学生間の国際交流の礎となっていると感じられた (写真3, 写真4)。

3. 帰国後の感想

短期海外研修を終えた学生の、プログラム全体に対する評価は高く、参加者全員が満足した、という感想を持って帰ってきている (表4・表5)。特に、実際に大学の寮で生活し、現地の学生の日常を直接目の当たりにしながら韓国の文化や教育環境に触れるという経験や、病院をはじめとした医療・福祉施設など、通常の観光では見ることのできない場所を訪れることができたことに対する満足度はとても高かった。

しかし、2週間の滞在期間での学びをより深めるために、渡航前の準備を充実させることが必要である、と示唆される点もいくつかあげられている。特に、看護に関する会話の際に、看護・医療で使用される専門的な用語については英語で学んでおくべきだった、という点と、「日本ではどうか」と質問を受けたときに答えられるよう、基本的な日本の医療提供システムと、病院の仕組みについて知っておくべきだった、という点である。これらについては、次年度以降の学生に十分に伝えるとともに、事前学習支援の方策について検討することも課題であると考えられる。

V. 成果と今後の課題

過去3年間に行われた延世大学との短期海外研修生受け入れプログラムについて報告した。実際の運営に携わるにあたり、相互のプログラムは徐々に軌道に乗り、洗

表3 2007年度延世大学における本学学生短期研修プログラム

日 時	日 程	プ ロ グ ラ ム
9月2日(日)	午後	空港到着：延世学生によるお迎え，入寮
9月3日(月)	9：30 - 10：00	オープニングセレモニー
	10：00 - 12：00	看護学部オリエンテーション
	12：30 - 13：30	ウエルカムランチ
	14：30 - 15：00	看護学部学内案内
	15：00 - 15：30	延世看護歴史博物館見学
9月4日(火)	全日	ウエルカムパーティー：学生主催
9月5日(水)	10：00 - 11：00 14：00 - 17：00	コミュニティケアシステム・老人デイケアセンター見学
9月6日(木)	午前 14：00 - 17：00	Naeil 女性センター見学：助産課程の学生による Severance 病院における学生実習の見学および，院内学級の見学
9月7日(金)	全日	フリー
9月8日(土)	全日	フリー
9月9日(日)	全日	フリー
9月10日(月)	10：00 - 15：00 - 16：00	Il-San 病院（精神科）見学 聖路加看護大学についてプレゼンテーション
	9月11日(火)	9：00 - 11：00 14：00 - 16：00
9月12日(水)	全日	延世老人ソーシャルサービスセンター見学
9月13日(木)	10：00 - 11：00 13：00 - 15：00	講義：ヘルスアセスメント（英語 延世大学学生と合同） 講義：慢性疾患管理（英語 延世大学学生と合同）
	9月14日(金)	10：20 - 11：00 11：30 - 14：00 - 15：00
9月15日(土)	午後	空港出発



写真3 学生間の交流



写真4 韓国の医療施設見学

練されたものになっているという印象を受ける。特に本学では、2006年度より国際交流委員会が学内委員会として設置，専任の教務担当者の採用が行われ，さらに2007年度からは学生国際交流委員会も組織化されるなど，国際交流事業を中心的に行う基盤が構築されはじめている。しかし，今後も事業を継続し，より内容を充実させるためには，課題とされる事項もまだ多いのが現状である。今後へ向けた課題について以下にまとめる。

1. 海外研修生の受け入れ時における本学学生との交流について

本件に関しては2006年度の報告においても取り上げ，国際交流活動に関して，学生間にも温度差があるという事実への対応として，海外研修生の来日をアピールする方法の工夫，研修生のスケジュールを学生に公開し，空き時間には自由に交流することができるようにするといった広報活動の工夫，さらに，研修生のみを対象とした講義を特別に企画するのではなく，通常授業への研修生の参加回数を増やすこと等をあげていた。そこで，今年度は学生ボランティアに加えて，学生国際交流委員会を公

表4 2006年度本学学生の韓国延世大学短期研修終了後アンケート結果（回答者数4名）

質問事項	回 答 () は回答者数
プログラム内容	・満足 (4) ・不満足 (0)
期間と時期	・満足 (3) ・物足りない (1)
言語能力	・韓国語 不自由した (2) 普通 (1) 問題なかった (1) ・英語 不自由した 普通 (4) 普通 ・全体 不自由した (2) 普通 (1) 普通 (1)
コメント	・韓国語の講義が5割程度理解できた ・専門用語 (英語) が全くわからなかった, 予習しておくべきだった ・ジェスチャーと英語, 日本語, 韓国語のごちゃ混ぜで, 学生との交流はできた ・韓国語が話せる学生 (本学) がいたので, 病院での説明を理解できた
参加してよかったこと (交流に関わること)	・韓国の同年代の学生と, 互いに知り合うことができ, 学生生活を体験できた ・看護学生以外の学生とも交流できた, たくさんの友人ができた ・韓国の文化を知ることができた
参加してよかったこと (プログラムに関わること)	・病院・施設見学を通して日本と韓国の類似点・相違点をみることができた ・日本のことをもっと学ばなければいけないと思った ・観光では体験できない貴重な体験ができた
今後の改善に係るプログラムについてのコメント	・日本の医療システム, 病院の見学, 地域の見学などに関する事前学習が必要だった ・訪問したい施設を現地到着後にアレンジしてもらったが, 毎日のスケジュールがタイトになりすぎてしまった ・現地到着前に, プログラムの内容がもう少し詳しくわかっていたらよかった

表5 2007年度本学学生の韓国延世大学短期研修終了後アンケート結果（回答者数4名）

質問事項	回 答 () は回答者数
プログラム内容	・満足 (3) ・不満足 (1)
期間と時期	・満足 (3) ・物足りない (1)
言語能力	・韓国語 不自由した (3) 普通 (1) 問題なかった (0) ・英語 不自由した (3) 普通 (0) 普通 (1) ・全体 不自由した (0) 普通 (3) 普通 (1)
コメント	・ジェスチャー等でなんとか伝わった ・韓国語は, 学生との交流には必須 ・英語は専門用語が多数あり, とくに疾患名は覚えていったほうがよい (辞書に載っていない) ・学生や教授とは英語でのコミュニケーションがとれる
参加してよかったこと (交流に関わること)	・韓国の学生と交流ができ, 友達ができた。コミュニケーションの大切さがわかった ・好きな国が一つ増え, 外国を知ることで日本をより理解でき, 世界が広がった ・日本が世界の中の一部であることがよくわかった ・韓国の学生の向学心の高さを知った ・同じ志を持つ, 海外の友達ができた
参加してよかったこと (プログラムに関わること)	・病院・施設見学を通して日本と韓国の医療・看護の相違点をみることができた ・旅行とは違った良さがあった
今後の改善に係るプログラムについてのコメント	・事前に聖路加国際病院, その他の医療施設を見学しておけばよかった ・日本の医療保険制度の基礎的な学習をしておけばよかった ・延世大学には英語で行われる授業が多数あるので, そうした授業に参加したかった ・韓国語を学ぶ機会をプログラムに組み込んでよかったのではないかと ・現地到着前に, 延世大学についてもう少し詳しくわかっていたらよかった ・もっと長くホームステイをしたかった

式に設置することにより, すべての学年に, 国際交流活動に関するPR活動が行われる体制が作られた。具体的な方法については, 学生が主体となっていり, 来日知らせるポスターなどが作成された。本年度も, 経験のある上級生から下級生へと活動のノウハウが引き継がれ, 活動がより充実したものとなっている。国際交流活動の

主役は学生であるが, 本学においてはその活動の事実上の運営に主体的に関わる学生の協力は, 欠くことのできないものである。

さらに, 学生国際交流委員会では海外研修生の来日時以外にも, 学内で国際的な視野を養う機会を設けることの必要性が提示され, 大学祭への出展や, 国際交流セミ

ナーの開催などが提案された。このうち、国際交流セミナーに関しては、学生が中心となって企画、運営を行い現実のものとなっている。学生国際交流委員会の活動は、初年度でもあり、まだ確立したものとはなっていないが、5月、7月の海外研修生の受け入れを中心とした上で、その他の時期にも学生の様々なアイデアを生かした活動が行われるよう、支援していくことが必要である。

また、研修生の希望である本学学生と共通の授業への参加については、言語の問題から、英語、異文化コミュニケーション、国際看護ゼミおよび、演習の形態をとっている授業に限られているという状態に変わりはない。延世大学では語学以外の科目でも、英語で行われているものが一部あり、本学の学生が滞在する際には、そうした授業を受講している。本学では通常、語学以外の授業で使用される言語は日本語であるため、研修生の参加を可能にするためには通訳を配置するといった工夫も、今後考慮することができるかもしれない。

2. ホームステイの継続について

海外研修生受け入れ時に本年度から開始した週末のホームステイは、日本人の生活に密着することにより、より現実的な日本の文化に触れることができたという点や、親密な関係性を構築することができたという点で、研修生の満足度が最も高いプログラム内容となった。プログラム内にホームステイを組み込むに当たり、開催の条件として4名の研修生を1名ずつ受け入れられる4件以上の家庭（ホストファミリー）を確保し、すべての研修生がどこかの家庭に滞在することができることを前提とした。なお、ホームステイに関しては研修生の往復の交通費（大学～ホームステイ先）を大学から支出する以外は、基本的にボランティアで行っていただくこととした。本学同窓会の協力を得、同窓会主催教育セミナーおよび同窓会ニュースレターにおいて、海外研修生のホームステイ先の募集を行った。また、国際交流活動へのボランティア学生、学生国際交流委員会のメンバーからも、ホームステイを受け入れたいとの希望があり、計7件の家庭がホストファミリーの候補となった。日程の都合や大学からの距離、学生の場合一人暮らしでないこと、保護者の許可が得られることなどを考慮し、選考を行った。

ホストファミリーによる受け入れ後のアンケート結果では、すべての家庭で研修生の受け入れについて満足したという解答が得られた。さらに来年度以降も海外研修生のホームステイを受け入れたい、という意向のある家庭もあり、研修生にとっても最も思い出深く、日本の文化を知る機会となっていたこの行事を、今後も継続的にプログラムに組み込んでいきたいと考える。そのためにも、一部のホストファミリーに過度な負担がかからないよう、募集については年間を通じてアピールすることや、

金銭面を含めた負担に対する規定の作成なども、同時に行う必要がある。

3. 海外研修生受け入れに関わる本学学生の費用負担について

交流プログラムに関与する学生は、海外研修生の滞在期間をよりよいものとするために、自発的に考えたアイデアに基づいて多くの活動を計画、実行している。年々活発化し、バラエティーに富んだ交流活動が行われるようになる中、活動費の使用規定を明文化することが必要であると考えられる。一定予算の中で行われる学生の考えや判断に基づいた活動を、可能な限り支援し、学生への金銭的な負担は最小限に抑えたいと考えるが、例えば学外で行われる食事会の費用や、テーマパークへの入場料の一部負担等の取り扱いについては、コンセンサスを得ることは難しく、厳しい判断をせざるを得ない。今後こうした過去の活動から得た経験に基づく、具体的な予算執行規定を作成する必要がある。ただし、大学側として上記のような条項に対して予算執行が難しいということも明文化しても、海外研修生側が本学学生にテーマパークへの同行を要望することや、予想外の支出が発生することなども考えられ、フレキシブルな対応を行うことも可能となるような、国際交流活動費のあり方について検討を行う必要がある。

VI. おわりに

国際交流委員会の活動も2年目となり、昨年度の経験と反省を生かした国際交流活動を軌道にのせることができた年度であった。また、学生国際交流委員会の設立により、学生による国際交流活動が芽吹き始め、学生の視点に立った活動が開始され始めた年度でもあった。海外研修生との交流活動のみにとどまらず、国際的な視野を持った看護職の育成のため、学生自身の興味や関心に基づいた活動が、今後行われていく予定である。国際交流委員会としては、そうした新たな活動を支援し、より充実したものになるよう、活動を進めていきたいと考えている。

さらに、本稿では報告の対象としなかったが、タイ・マヒドン大学との交換研修制度の整備も今後行われ、来年度には新たな事業を開始することになる予定である。事業の推進に当たっては、引き続き検討しなければならない課題は山積しているが、本学および研修生が、相互に多くの学びを得ることを支援し、国内外で国際的な視野を持って活躍することができる人材を育成する一助となるため、今後も基盤の整備・改善を行っていく予定である。

謝 辞

海外短期研修生の受け入れと派遣にあたり、ご多忙な中、ご協力いただいた学内・学外の諸先生方、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、同窓会の皆様には格別な配慮を頂戴いたしました。重ねて感謝いたします。

参考文献

- 1) 園城寺康子他. (2007). 学術交流協定による2006年度海外研修生受け入れプログラムの報告. 聖路加看護大学紀要. 33. 39 - 47.
- 2) 川崎医療短期大学編. (2007). 大学における教育・研究に関する事業・活動報告 看護学教育の国際交流 - 国際的視野から看護教育を考える - . 看護学教育の国際交流 - 国際的視野から看護教育を考える - 報告書